

平成27年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検・評価対象期間

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

平成28年5月24日



平成 27 年度 自己点検・評価について

自己点検・自己評価の目的は、学校の教職員自らが定期的に学校を点検評価し、学校運営並びに教育活動の改善、質の向上を図ることにある。本校では、平成 20 年度より自己点検評価を続けてきた。平成 23 年度より、特定非営利法人「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の点検項目を基に実施し、各項目に対し「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の 4 段階の評価点をつけている。

この報告書は、第 2 回学校関係者評価委員会（H27/06/29 実施）の意見を取入れ、点検中項目の現状、評価、状態と、項目に対する課題・方策、状態、成果・効果をまとめたものである。現状の状態は、評価が「適切（評価点 4）」となった項目は「維持」、「維持」状態であるが更に発展した項目は「進化」、評価点 4 点未満の項目は改善の必要ありとし「要改」とした。また、課題・方策の状態は、新しく追加されたものは「新規」、前年度より継続しているものは「継続」と表記している。

平成27年度は、後述した五つの重点課題を中心として改善に取り組んだ。結果、自己評価点は3.80【昨年3.72】となり、昨年に引き続き概ね適切と評価できる。しかし、加点となった項目もあるが、残念ながら減点となってしまった項目も存在する。各項目の状態を確認・検証し、「学校運営並びに教育活動の改善、質の向上」のために、教職員全員で改善活動を継続して進めていく必要がある。

平成 27 年度 基準大項目評価点

基準大項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	【4.00】
基準大項目 2	学校運営	【3.92】
基準大項目 3	教育活動	【3.91】
基準大項目 4	教育成果	【3.63】
基準大項目 5	学生支援	【3.71】
基準大項目 6	教育環境	【3.93】
基準大項目 7	学生の募集と受け入れ	【3.75】
基準大項目 8	財務	【4.00】
基準大項目 9	法令等の遵守	【3.88】
基準大項目 10	社会貢献	【3.30】
	基準大項目平均値	【3.80】

※ 評価点は、4（適切）、3（ほぼ適切）、2（やや不適切）、1（不適切）、NA（No Answer）としている。

平成 27 年度 重点課題対応結果

重点課題 1 育成人材像の検討および「パーソナルプロデュース 一人ひとりを育てる教育」を推進する。

対応結果： 「一人ひとりを教え育てる」という視点にたち、編成委員会の意見を反映した育成人材像とカリキュラムを作成し、授業を実施した。また、教育指導、教育力検証のためのパーソナルデータベースシステムの構築を開始した。

重点課題 2 資格等の取得率を向上させる。

対応結果： 資格取得向上に向けて、試験対策の勉強時間数を増やした。また本番前に模擬試験を行い直前まで動機づけをし、放課後や朝の授業前の時間を利用して対策を行った。それにより国家試験の取得率が大幅に向上した。

重点課題 3 早期のケアにより退学率を低減させる。

対応結果： 入学直後からカウンセラーによるケアを実施、夏季休暇や春季休暇なども相談日を設け、カウンセラーと相談できる時間を増やしたが、精神面のケアは難しく残念ながら退学率を低減することができなかった。

重点課題 4 災害発生マニュアル整備等、防災プロジェクトを推進させる。

対応結果： 防災プロジェクトを発足し、防災マニュアルの確認、災害時の避難場所確認、水や食料等の備蓄について検討。長期で保存可能な防災セットを学生一人ひとりで常備することとした。

重点課題 5 個人情報に対するセキュリティーを強化する。(携帯電磁記録媒体の取り扱い)

対応結果： 各部署における個人情報、機密情報の調査、保管管理状況の確認。個人情報保護、特定個人情報管理に伴い、特定個人情報管理規定、個人情報保護規定の整備、就業規則の変更をした。携帯電磁記録媒体の取り扱いは、各規定においてその管理を強化したが、USB メモリ全面禁止は、教育機材の関係から現状はできない。

平成27年度 アーツカレッジヨコハマ 自己点検・評価報告書

基準大項目1 教育理念・目的・教育人材像等

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
① 理念・目的・育成人材像は定められているか	現在の教育理念は、平成18年からのものであり今年度で9年目となる。内外ともに本校の役割、理念、教育システム、スローガンとして公表周知している。本校の教育理念・目的は、本校(専門学校)としての学生に対する役割を基に考えられたものであり、その役割は時代の変化とともに急激な変化するものではないと考える。しかし、育成すべき人材像の変化は速いものと理解している。今後も、時代の要請に応じた人材育成のために、学科、教育編成、教育方法等を適宜見直ししていくことが肝要である。	4.00	維持			
② 学校の特色は何か	ゲームクリエイター学科、デザイン学科、情報処理科、国際情報ビジネス学科、実践研究学科の総合学科専門学校である。また、自律した社会人になるための学校として専門教育と人間教育を両輪とした教育内容が特色である。H26年度から「育てる教育」を展開している。また、留学生に対して、日本企業で働く上で必要となる日本文化教育を実施していく。	4.00	進化	・「一人ひとりを育てる教育」をパーソナルプロデュースとして実践して行く。	新規	・パーソナルデータベースシステム構築開始。
③ 学校の将来構想を抱えているか	情報処理科から始まった本校は、現在エンターテインメント分野であるゲームやデザインの人材育成も手掛けている。今後も両分野の教育を充実させながら、新しい事、物を生み出せる人材の養成をして行く。また、教育の一翼を担う当校は、自校の存続を願うだけの存在ではなく、日本ひいては世界のためになる人材を育成したいと考え、日本文化を教育し、自国理解、他国理解をした人材を育成していく。	4.00	維持			
平均値						
4.00				±0		

基準大項目2 学校運営

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
① 運営方針は定められているか	目的は、本校が存在する意味であり、目標は達成のための指標であり、方針はそれをどのように行っていくかである。教職員全員が目的、目標、方針の違いを認識し、本校におけるそれぞれの内容をしっかり理解したうえで学校運営を進めなければならない。H26年度より、教職員全員に対し個人毎の面談を行い理解のずれを調整し、運営を進めている。また、就業規則等の各種規定は必要に応じ改定し整備している。	4.00	維持			・個人情報保護、特定個人情報管理に伴い、特定個人情報管理規定、個人情報保護規定の整備、就業規則の変更。 ・教職員慶弔規定の整備。
② 事業計画は定められているか	毎年度実施する事業計画発表会において、事業計画の達成度と次年度以降の事業計画を確認している。学校の方針等は、単年度のものだけでなく、継続して実施すべきものも含まれ、結果および計画は、毎年度理事会、評議員会で報告し承認を得ている。	4.00	維持			
③ 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	理事会、評議員会は定期的、必要においては臨時に開催し、重要事項の審議を行っている。職業実践専門課程申請に伴い、運営組織に学校関係者評価委員会、各学科の編成委員会等を新たに追加し運営をした。また、平成26年度より学校運営会議の時間短縮化、ペーパーレス化を実施し、会議運営の効率化を図っている。	4.00	維持			
④ 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	平成26年度より、年2回実施していた教職員個人面談を年3回にふやし、教職員各人の役割、ミッションを明確にした上で達成度を評価する人事考課制度を整えた。これにより、従来の面談ではできなかった賞与、昇給、昇格との連動ができるようになった。	3.50	要改	・専任教員採用。 ・人事考課制度の検証と改善。	継続	・教員2名採用。
⑤ 意思決定システムは確立されているか	各事案の起案は各部署の責任において行われ、必要において各部署会議、学校運営会議等で協議された後、理事長、校長の承認を待って確定事項となる。重要案件は理事会の承認を待っている。	4.00	維持			
⑥ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学生管理システム、学生募集システム、学校会計システム及び各部署日常業務のほとんどはパソコンを活用して行われ、業務の効率化を図っている。また、学校内サーバーとは別に、学校運営会議や、校長と部署間に必要となる資料、データ等をクラウド化して共有している。	4.00	進化+1	・パーソナルデータベースシステムの構築。	新規	
平均値						
3.92				+0.17		

基準大項目3 教育活動

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
① 各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正	職業実践専門課程への取り組みの中で、教育課程編成委員会を実施し、業界のニーズに合わせた教育目標・育成人材像の意見をもらい、それを反映したカリキュラムの作成ができるようになった。	4.00	維持			
② 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	各学科主任が中心となり、学科ごとに年間の事業計画を作成し、業界で活躍するのに必要な専門知識・資格や技術を考慮した到達目標が掲げられ、各学科育成に必要な修業年数を考えた学科運営をしている。目標に対する到達度は、事業計画に基づき各学期と年度末に学科主任が結果の振り返りと検証を行い次年度に活かしている。	4.00	維持			
③ カリキュラムは体系的に編成されているか	学校の教育方針である「一人ひとりを教える」という視点にたち、編成委員会の意見を反映したカリキュラムの作成を行っている。また各学科、年間で事業計画を作成しており、カリキュラムは、学科の授業、参加する学外イベントなどが時系列で記され、1つ1つの内容がつながりを持ち、技術的、人間的にどのように成長するかが理解できるものとなっている。	4.00	進化	・学生を教えるということを意識したカリキュラムの作成。 ・グループワークやチーム制作課題などの積極的取入。 ・国際情報ビジネス学科における日本文化教育カリキュラムの検討。	新規	・企業連携講座の中でグループ課題増。 ・作品発表時間を増やした。 ・日本文化教育プロジェクトの立ち上げ。

④	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	学科ごとのカリキュラムに沿って、科目ごとにコマシラバスが作成され、全体・学期の到達目標、学習のねらい、定期考査基準が記入され、学生に動機付けがおこなわれている。また、科目コマごとに講義予定表作成し、予定に対する一日ごとに講義実績の振り返りを記入し、進捗の管理をしている。	4.00	維持			
⑤	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	学生が知識や技術を活かすためには、社会に出たときに積極的に人と関わりをもって仕事をしていく必要がある。そのため企業連携講座でもグループワークやチーム制作の時間を増やした。また自分の作品を発表する時間を作り、学生同士で共有することや企業の方にプレゼンする機会を作り、キャリア教育の視点にたつて授業をおこなっている。	3.50	要改	<ul style="list-style-type: none"> ・本校としてのキャリア教育の定義を明確にし、実践していくためにどのような方法が一番良いのか検討していく。 ・インターンシップのフィードバックは企業からだけでなく、学生からも行ない、各学科が理想とする人材育成のために有効なキャリア教育と方法を追求する。 ・グループワークやチーム制作課題などの積極的取入る。 	継続新規	<ul style="list-style-type: none"> ・ハッカソン、ゲームジャム、コミティア、東京ゲームショウの実施。 ・プログラミングコンテストへの参加。 ・企業連携講座の中でグループ課題増。作品発表時間増。
⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	学期ごとに教員に対する授業アンケートを実施・集計し、年に3回上長と面談する機会を設け、上記アンケートの内容をフィードバックしている。シラバスやコマシラバスを作成し、適宜授業の内容や結果を把握する仕組みがある。	4.00	維持			
⑦	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	業界で活躍できる人材を育成するうえで必要となる専門の知識・技術を教える授業に関しては、実際にその分野で就業していた人材または同等の力を示す資格取得者を担当に据えている。業界の知識・技術を陳腐化させないために最先端の業界知識・技術を学ぶため研修に参加し、教員で共有している。	3.67	要改	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の増員。 ・非常勤講師間協業。 	継続	・編成委員会からの意見による外部セミナーへの参加。
⑧	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	期末に試験を実施し、授業態度、課題、出席率等を考慮して成績評価を行う。成績は、点数によりA～Dの4段階で評価をしており、100～80点でA、80～60点でB、60～50点でC、50点未満がD評価となっている。D評価は単位認定不可となる。D評価を除いた学生が、A:B:C=1:2:1の割合を目安にしており、D評価の学生は、再試験や再課題を行い再評価の機会を与えている。この基準は、授業担当教員全体で共有している。	4.00	維持			
⑨	資格取得の指導体制はあるか	各学科、取組む資格の重要度が分かるように学生便覧に一覧にして掲載している。業界就職するにあたって資格が重要になってくる情報処理学科に関しては、学科カリキュラムの到達目標に資格取得を記している。科目ごとのシラバスでは学期ごとに目標にする資格と目的を記して指導にあたっている。	4.00	維持		・各学科の検定合格率向上。	

平均値	
3.91	±0

基準大項目 4 教育成果

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3.50	要改	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な先輩の話聞く機会を設ける。 ・業界就職率のさらなる向上。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率90%以上。 ・前年より多くの企業を招いた就職セミナーや業界説明会(回数増)を行った。
②	資格取得率の向上が図られているか	4.00	進化+0.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の基礎学力をあげるための対策が必要。 ・学生たちがどこまで育ったかということ把握。 	継続新規	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の検定合格率向上。 ・国家試験の合格率大幅向上。
③	退学率の低減が図られているか	3.00	要改-0.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のこれまでの生活環境や家庭環境から、精神的な部分でサポートが必要となってくるケースも多く、今後も専任のカウンセラーに相談しながらケアをしていく。 ・カウンセラーとの協力体制を整え、UPI以外の検査の導入。 ・国際情報ビジネス学科においては、生活指導面でのケアが重要である。 	継続	・留学生の退学率低減。
④	卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4.00	維持			

平均	
3.63	±0

基準大項目 5 学生支援

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	就職に関する体制は整備されているか	4.00	維持			<ul style="list-style-type: none"> ・アーツポータル利用により、学生に求人情報を早く伝えられる。 ・自宅からも求人情報を閲覧できるようになった。
②	学生相談に関する体制は整備されているか	3.67	要改	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士資格保有のカウンセラー配置。 ・留学生の進路、キャリア相談や企業選定などの時間を増やす。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーの相談日増。 ・医療機関や専門の相談機関との連携。

③	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	入試制度における学費支援制度の説明や、学費の分納制度など個別の相談にも応対している。また、平成28年度入学生からは、災害・経済的理由等特別支援制度を募集要項に明記し、支援体制の充実を図る。そのほか、日本学生支援機構をはじめ、公的機関、民間金融機関による奨学金、教育ローンの案内、書類の取りまとめを行っている。	4.00	進化	・災害・経済的理由等特別支援制度設置。	新規	・新支援制度適用学生1名合格。
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	年に1回の健康診断を実施し、結果を学生に配付し管理しているが、家庭での生活習慣や食事のバランスなどを把握するのは難しいため、カウンセラーによる、規則正しい生活とバランスのとれた食事の指導のサポートをお願いした。またUPI(University Personality Inventory)にて健康聴き取り調査を行い学生の精神衛生についての健康の維持増進と予防的な取り組みをしてきたが、この調査だけでは家庭環境の把握は難しく、学生への面談での聴き取りが重要であり、引き続き面談をして学生一人ひとりを把握することが重要である。	3.00	要改	・健康調査UPIだけでは家庭環境の把握は難しく、学生への面談での聴き取りが必要。 ・健康相談に応じる選任の医師、看護師の配置。	継続	
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動は、学生の主体性や協調性を養うものとして、学校教育には欠かせないものになっている。学校でもサークル活動の支援体制を整えている。学生が達成感を得られ、充実した学生生活が送れるように支援していく。	4.00	維持			・新規のサークルが立ち上がった。
⑥	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮を希望する学生は減少傾向であるが、民間学生寮と提携し案内している。また、留学生に対しては「勉強」と「アルバイト」の両立ができるよう、アルバイト情報の中身をしっかりと確認した上で情報提供していく。	4.00	維持			
⑦	保護者と適切に連携しているか	保護者に学校への理解を深めてもらうため、新入生保護者説明会を実施している。また就職保護者説明会を実施し、就職活動状況や企業の採用に関する動向を話す機会を設けている。どちらも学生の進路にむけた保護者との連携と協力の依頼が目的である。	4.00	維持			・新入生保護者会の実施。 ・就職保護者説明会の実施。
⑧	卒業生への支援体制はあるか	卒業後も転職相談等があった場合、必要に応じて個別に対応している。資格等のフォローは、テキストの紹介、受験案内を渡すなどの対応を行っている。facebookやtwitterなどを活用して、卒業生とタイムリーに情報を共有できる仕組みを作っている。同窓会の機能として、学園祭でブースを設置し、卒業生どうしがコミュニケーションをはかる機会を設けている。	3.00	要改	・卒業生の状況把握するためにもOB会としての機能を果たせるような仕組み作りにおいてはまだ実施できていないので、今後検討の必要がある。	継続	・卒業生からの求人提供が増えた。
			平均値				
			3.71	±0			

基準大項目6 教育環境

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.00	維持 +0.33			・1F～2Fのネットワーク環境の整備。 ・26教室のPC用ディスプレイ交換。
②	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.00	維持			・プログラミングコンテスト、クリエイターEXPO、コミティア、東京ゲームショウへの出展参加。
③	防災に対する体制は整備されているか	3.80	要改 +0.2	・災害発生マニュアルを整備しながら引き続き周知、指導を行い、日頃より防災の意識を高めていく。 ・長期保存可能な防災セットを学生一人ひとりで常備する。	継続 新規	・災害発生マニュアルの制作。 ・防災リーフレットの作成、配布。
		平均値				
		3.93	+0.53			

基準大項目7 学生の募集と受け入れ

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	学生募集活動は、適正に行われているか	3.50	要改	・計画から検証までの流れを確立し、その反省点を次の計画に盛り込んでいくシステムを構築する。 ・学校を知ってもらう「広報」への働きかけを強化する。 ・見やすさ、分かりやすさの追求とともに、告知に偏りがちである内容を改め、広報していく。 ・高校生の心理状態や意識レベルを想定したアプローチを実施する。また教職員全員に情報を共有し、同じようにアプローチできる仕組みを作る。	継続 新規	・入学者増。 ・H29年度入学生用パンフレット。
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.50	要改	・教務部からの早いフィードバックの仕組みを構築。 ・パンフレットに登場する卒業生の数を増やし、教育成果の実証を大きくアピールする。 ・卒業生がプロに必要な知識技術を身につけてプロになったことを伝えていく。 ・パンフレットやオープンキャンパスで、学年ごとの作品を展示し、その成長ぶりを視覚で理解できるよう工夫する。	継続 新規	・入学者増。 ・H29年度入学生用パンフレット。

③	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	選考については、面接官を限定した形で行っており、基準のブレはほとんどないと思われる。また留学生に関しても別途審査表を基に選考しており、問題は無いと考えている。	4.00	進化	・留学生の筆記試験は、より日本語能力を総合的に判断する選考とする。さらに、「日本語能力試験にチャレンジしているか」「アルバイト内容は接客業か」など、努力項目の基準も設定する。	新規	・前年度より日本語能力、就職意識の高い留学生の選考ができた。
④	学納金は妥当なものとなっているか	現状では、同分野他校とのバランス、学費減免制度を比較しても大きな問題はないと考える。学校のスタンスとして、指定校制度の拡大やさらなる減免制度の設定を行なっている学校も見受けられるが、本校としては減免措置をとるにしてもそれに相応する評価を求めている。また、辞退者に対する返還も適正に処理している。	4.00	進化	・国際情報ビジネス学科の学納回数を変更し、キチンと納入してもらおう体制とする。	新規	
			平均値				
			3.75	±0			

基準大項目 8 財務

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4.00	維持 +0.5			
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.00	維持 +0.5			
③	財務について会計監査が適正に行われているか	4.00	維持	・学校法人会計基準改正に伴う計算書類の整備。		・新基準適用の予算書作成。
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4.00	維持			
			平均値			
			4.00	+0.25		

基準大項目 9 法令等の遵守

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.00	維持			
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.50	要改 +0.5	・留学生は個人情報に対する認知はほぼ皆無。広報担当者からの説明が必要。 ・携帯用の電磁記録記録媒体の取り扱い管理強化。 ・個人情報保護、特定個人情報管理規定と体制の整備。 ・個人情報に対するセキュリティ強化。(電磁記録媒体)	継続	・個人情報保護、特定個人情報管理に伴う就業規則の変更。
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4.00	継続			
④	自己点検・自己評価結果を公開しているか	4.00	進化	・第2回学校関係者委員会の意見を取り入れ、報告書の体裁変更し、課題や改善策、成果を確認しやすくする。	新規	
			平均値			
			3.88	+0.13		

基準大項目 10 社会貢献

点検・評価項目(中項目)	現状の説明	評価	状態	課題・方策		
				内容	状態	成果/効果
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.60	要改 +0.2	・専門学校としての本校が、今できる重要な社会問題は何か、また何をすべきかを認識し、意識、価値観を共有する。	継続	・神奈川県委託訓練講座実施。 ・求職者支援訓練講座実施。 ・学園祭に地域住民を招待。 ・神専各の学び場実施。 ・高等学校連携講座実施。 ・町内会連携事業プロジェクト発足。
②	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3.00	要改	・学生にボランティア活動の意義を伝え、積極的に奨励している。平成23、24年度は、東日本震災被災地でのがれきの撤去と側溝の清掃に参加。平成24、25年度は、戸塚駅前でのイベントにて地域活性化活動に参加。平成23、24、25年度は、NPO法人子どもネットミュージアムが主催する夢絵コンテストの運営補助を行った。平成27年度は、スマートイルミネーション横浜2014に参加した。	継続	・ネパール大地震募金活動実施。
			平均値			
			3.30	+0.1		